

「良い行いをも備えて下さる神」ヤコブ2：14～26 堀田修一 21・4・18

I 先行的神の恵み。あわれみ深い神。私たちは、律法を完全に守ることはできません。すべての人の心に罪があるからです。律法の行いによって救われる人は一人もいません。そんな罪人の私たち人間を神はあわれみ、御子イエス様をこの世に遣わされました。主は、律法を完全に守られ、律法を成就されました。律法のいけにえが指し示していたのは、イエス御自身の十字架の死、いけにえでした。主は私たちを愛し、私たちの罪が償われるためのいけにえとして、十字架で死んで下さったのです。それで、神の律法の要求は全うされました。それゆえに、私たちは、律法を完全に守った人だけが救われるのではなく（もしその条件ならだれも救われない）、律法を成就された主を、「私の罪の為に死に、よみがえられた救い主、神、主」として信じる信仰によって、救われる道が開かれたのです。感謝します！「雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました」（ヘブ9：12）。「イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました」（10：20）。

II 「人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私たちもキリスト・イエスを信じました」（ガラ2：16）と今日の「人は行いによって義と認められるのであって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう」ヤコブ2：24は、矛盾するのでしょうか。※みことばの正しい解釈の大原則は、一箇所のみことばではなく、聖書全体と照らし合わせて解釈する事です。

1. いいえ。ヤコブが言っている「信仰だけによるのではない」とは、信仰による救いを否定しているのではなく、「本当に主を信じているのではない、口先だけの偽物の信仰、心が伴わない頭の知識だけの信仰によっては救われない」と言っているのです。主を信じる本当の信仰は、主との命のつながりが生まれるので、主からの新しい命で新しい行いが生まれるのです。「信仰も行いが伴わないなら、それだけでは死んだものです」2：17。死んだ信仰は新しい行いを生まず、真の信仰は新しい行いを生みます。

2. 「信仰がその行いととも働き、信仰は行いによって完成されました」：22＝この意味は、主と霊的に結びつく信仰は、主の喜ばれる行いを生み、信仰は、主との命の繋がりから生まれる主の喜ばれる行いにより成長し完成して行くという事です。

3. 頭の知識だけで、心で主を信じていないなら、その信仰は死んだものです→「あなたは、神は唯一だと信じています。立派なことです。ですが、悪霊どもも信じて、身震いしています」：19。悪霊たちも、知識だけの信仰は持っていたが、悔い改めて心から神を信じる信仰は持っていなかった。しかし、主を心で信じる信仰は、主との命のつながりが出来ますので、心にある主の命により新しい行いが伴うのです。21節の「アブラハムは、その子イサクを祭壇に献げたとき、行いによって義と認められた」とは次のような意味です。23節に「アブラハムは神を信じた。それで、それが彼の義と認められた」とありますように、アブラハムは、まず、神への信仰により義と認められました。彼の信仰により、彼は神との命のつながりを持ち、神の恵みと御力により、「その子イサクを祭壇に献げた」のです。「行いによって義と認められた」：21の意味は、行いにより、信仰によって義と認められた信仰が本物と証明されたという意味です。25節の「遊女ラハブも、…その行いによって義と認められた」の意味も、その行いにより、信仰によって義と認められたことが証明されたという意味です。私たちは、もちろん完璧に良い行いができるクリスチャンではありません。

せん。しかし、確かに神は、私たちを内側から変え続け、主を信じる前とは違う行いを生み出しておられます。たとえば、①自分の罪、過ちを認め、神に告白する、お詫びするという行為。これは、主を信じる本当の信仰から出る行いです。②神に個人的に祈る、他の人の守り、祝福、癒し、支えの為にとりなし祈るという新しい行為。これも、神が与えて下さる信仰から出る新しい行為です。③不平の人生ではなく、神のすべての恵みを数え感謝し、神を礼拝する事が喜びとなり、神に捧げものができるのも信仰から出る新しい行いです。：15，16→兄弟また姉妹が、着る物がなく、食べ物にもこと欠いているとき、神からいただいた愛でその人々を愛し、必要なものを与える。※神に変えられた証し。捧げる恵み。これも愛して下さる主を信じる信仰から生まれる行いです。神からの報いもあります。「わたしの弟子だからということで、この小さい者たちの一人に、水一杯の冷たい水でも飲ませる人は、決して報いを失うことはありません」マタイ10：42

Ⅲ すべては神から出る大きな恵み、賜物。励ましの御言葉。

①「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それは、あなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることはないためです。実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました」エペソ2：8～10。主を信じる信仰も、生ける信仰から生まれる良い行いも、あらかじめ神が備えてくださったのです。何という恵みでしょう。後でわかることもあるのです。「ああ、あの時、神さまが働いて下さって、実践する力と愛を下さったのだ」と。※証し。

②「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい」ペリピ2：13，14。みこころを求めて良く祈りましょう。ある時は、神は、私たちがやる心を治め、とどまらせ、ある時は、勇気を与え踏み出させるお方です。

③「あなたがたの間で良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださる」ペリピ1：6。私たちは、神がみわざを始められた対象です。神が私たちの心に住み、今まさに働いておられるのです。クリスチャンとは、何らかの理論を信じ、それを実践しようと努力している者ではありません。神が、主を信じて主につながっている私たちの内に働き、私たちを通してみわざをなさるのです。

④「私を強くしてくださる方によって、私はどんなことでもできるのです」ペリピ4：13。これは、もちろんパウロの高慢な言葉ではありません。彼は真に謙遜な人です。この意味は、どのような状況の中でも、キリストが自分を強くして下さる、十分な力を注ぎ込んで下さるので、強められて事にあたることができるという御言葉です。私たちは一人で放り出されてはいないのです。一人で勝ち目のない戦いを空しく続けているわけではありません。主ご自身からの素晴らしい力と愛と識別力が注がれ、私たちの内に与えられるのです。こう語るパウロは、獄中にいました。その生涯において多くの苦汁を味わい、多くの失望を体験しました。迫害され、非難され、同労者によって苦しめられ、獄中にあり、殉教の死に直面していたと思われまふ。その中で「私の内に絶え間なく活力を注ぎ込んで下さる主によって、すべての事に対処できる」と告白したのです。この同じ主が私たちの内に生きておられます。また神は、神に喜ばれる良い行いをもあらかじめ備えておられます。このお方に拠り頼んで一日一日歩みましょう。「実に、私たちは神の作品であって、良い行い（神の御心）をするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行い（神の御心）に歩むように、その良い行いをあらかじめ備えてくださいました」エペソ2：10。誇りは私達にはなく、すべての栄光と感謝を神に捧げます！